

遠隔地からの難病児 通院、入院

NPO、鹿児島市に開設

家族支援へ宿泊施設

鹿児島県内の離島やへき地など、小児科専門医が少ない地域への支援活動をする民間非営利団体(NPO)法人「こども医療ネットワーク」(本部・鹿児島市)は、同市内の病院に通院・入院する子供と家族が宿泊できる「鹿児島ファミリーハウス」をオープンした。交通費や滞在費などで大きな経済的負担を強いられている遠隔地の小児難病患者・家族にとって心強い支援になりそうだ。



家電製品や調理器具が準備された鹿児島ファミリーハウス

ファミリーハウスは鹿児島市鴨池二丁目にあるビル内の三室。希望者は主治医を通じて登録、電話で申し込む。人数にかかわらず一泊千円で原則六泊まで利用可能。部屋の広さは1Kから1DKで、家電製品や寝具があるほか、入院中の子供が一時外泊する際に、保護者の手料理を食べさせてあげられるよう調理器具や食器も置いてある。

七月末から受け入れを始め、子供の受診が多い夏休みの八月はほぼ満室の状態。利用者からは「快適な部屋。本当にありがたいう。」との声も寄せられたという。

河野嘉文理事長(鹿児島大教授・小児科)によると、宿泊に利用する部屋は、病気で子供を亡くした経験を持つ男性が「両親の苦労は痛いほど分かる」と、無償で提供を申し出た。その直後に、アジア太平洋地域でさまざまな支援活動をする非政府組織・アジア財団からも偶然百八十万円の寄付申し出があり、清掃や鍵の取り付け、家電製品などの費用を捻出できたという。

維持管理は「がんの子

供を守る会鹿児島支部」のメンバーら女性数名が担当。仕事や家事の合間を縫って、寝具交換や清掃などを引き受けている。同支部の中間初子代表幹事は「私たちも設置したいと思っていた施設。快適に過ごしていただけのように、陰ながらお手伝いしたい」。

河野理事長は「実現は不可能と思っていたが、

多くの人の縁に助けられた。たくさんの子供、保護者の方々に利用してほしい」と話している。

鹿児島ファミリーハウス問い合わせは同ネットワーク本部(鹿児島大小児科内) 099(275)5354。同ネットワークホームページは <http://www.kodo-net.or.jp/>